

支援対象国

ネパール連邦民主共和国



ネパールは、北は世界最高峰のヒマラヤ山脈から、南はインド国境沿いの平野を有しており、狭い国土の中に急峻な地形が凝縮されています。

これらの多様な地形が脆い地質からなることや、ネパールが典型的なモンスーン気候であることから、毎年6～9月の雨季には、全国で洪水、地滑り、土砂崩れ等の災害が起きています。また、国土全体がプレートの境目に位置することから、地震活動が活発な地域でもあり、2015年には大地震が発生。今後も全国的にさらなる地震の発生が危惧されています。

山や川の多いネパールでは、災害が起きても支援の手が届きにくいのが現状です。救助に頼らず、住民自らの力で災害に対処できるようになること、また被害を最小限にとどめることが「ネパール・コミュニティ防災事業」のゴールです。



ウダヤプール郡

山岳地帯で、土砂崩れや地震の被害に備えています。

グルミー郡



僕の村は、ネパール最大級の川に面していて、洪水を防ぐ活動をしています！



チトワン郡

ヒマラヤの見える高地で、大雨が降ると土砂崩れが起こります。

皆様のご支援に、感謝申し上げます。
赤十字の活動は、皆さまからのご寄付に支えられています。

ご協力方法



郵便局・各金融機関

全国の郵便局、その他取扱いのある金融機関で寄付できます。



インターネット

クレジットカードやPay-easyで寄付できます。

日赤 海外たすけあい

検索



特設サイトへ



窓口

日本赤十字社の各都道府県支部、赤十字病院、献血ルーム、NHK各放送局などから寄付できます。

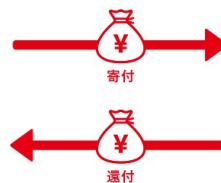
その他

SoftBank スマートフォンの利用料金の支払いと一緒にできる寄付やファミリーマートにある情報端末「Famiポート」を使っての寄付、Yahoo!募金やAmazonのサイトからも寄付ができます。

税制上の優遇措置

日本赤十字社へのご寄付は確定申告することで個人の所得税や、企業の法人税の控除を受けられます。

個人の場合…



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society



税務署

所得控除の計算式

A: 年間所得額 - B: (寄付金額 - 2,000円) = C: 所得税課税対象額

※ただし、Bは、Aの40%が上限となります。

〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3

日本赤十字社 国際部 開発協力課

TEL: 03-3437-7089

2018年4月作成

ネパール コミュニティ防災事業



コミュニティー防災とは？

住民が活動の中心となって身の周りのリスクを再認識し、解決策に取り組み、災害に対応できる知識と能力を身に付ける一連の活動を通して、住民の災害からの回復力（災害のインパクトを軽減し、適切に対応し、逆境から立ち上がる力）を向上させることを目標としています。

その1 住民が主役！

コミュニティーごとに災害対策委員会が作られ、活動の主体となります。活動を担う地域のボランティアも育成します。



その2 地域の危険を発見する



住民自身がリスクを発見し、リスクマップを作成。防災活動の計画を立てます。

その3 リスクを減らすための活動



防災



水・衛生



生計支援

防災訓練や啓発、洪水や土砂崩れを防ぐ堤を造るなど防災・減災活動を行います。

手洗いの啓発、貧困層へのトイレ・水設備支援などを通じて衛生環境を改善します。

貧困層へ生計支援を行います。

その4 ネパール赤十字社の組織強化

ネパール赤十字社の災害対応や防災事業を実施する能力を強化し、より多くのネパール国民に支援を届けます。

事業概要

■事業期間

フェーズ1 2012年8月～2015年12月 ※終了
フェーズ2 2016年4月～2019年12月 ※実施中

■事業地

ネパール連邦民主共和国
ウダヤプール郡、チトワン郡、グルミー郡

ネパール赤十字社担当者メッセージ

ネパール赤十字社のアンジャン・アチャルヤです。ネパール赤十字社で8年間働いていて、この事業を開始当初から担当しています。

世界最大の人道支援機関であること、最も弱い立場の人を支援するという使命に共感して赤十字に入りました。

赤十字に入ってから、いくつかの災害対応も経験しましたが、特に2015年に発生した大地震の救援活動の中で被災された方が心から安心した表情をしていたのが印象的で、その時は人道支援に関わる者として、脆弱な立場に置かれた人びとを支援する使命感を改めて感じましたね。

コミュニティー防災事業はフェーズ2に入ります。災害が発生した時、真っ先に人を助けることができるのは地域住民であることは私の経験から間違いなく、住民の災害対応能力を高めるこの事業は非常に重要です。この事業が一人でも多くの住民の命を守れるよう、職員・ボランティア・住民が一丸となって取り組んでいきたいと思っています。



ネパールを災害から守るため・・・ サポーター大募集！

ネパールからの声（フェーズ1 成果）



堤防の最上段まで水が来るほどの大雨の時にも村を守れました。

チトワン郡では、石と網で造った堤防が毎年村を襲っていた洪水の発生を防ぎました。



「さっき、鶏を触ったから石けんで手を洗うんだよ」

トイレの使用や石けんでの手洗い、調理環境を衛生的に保つことなどの啓発を実施しています。すべてのコミュニティーで下痢にかかる人の数が減ったほか、食器を乾かす棚を作製したり、ごみ箱を村内に設置したりするなど、衛生に対する行動に変化が見られました。

のどに物を詰まらせた子どもに遭遇したとき、その子を助けることができました。災害が起きても住民のいのちを救いたいです。



救急法や災害救護など、住民の災害対応能力を高める研修を実施。救急法研修を受講したウダヤプール郡リンパタール村のウマ・カナールさんは実際に村人の命を救うことに成功しました。